

2020年(R2年)

12月

No. 346

ひとはつくり



社会福祉法人 ひとは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホム) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

先日、以前賀茂病院にいた元山さんが訪ねてくれました。長い付き合いになります。支援者としての彼の活躍は言を俟ちません。

しばらく歓談をするうちに、元山さんから近々誰でもが集える場を作りたいという思いを聞かせてもらいました。大賛成です。その進め方も聞かせてもらいました。元山さん曰く実はね、こういう企画を思い立ったのは、あのふれあいハイキングにあるのよ。老若男女相集うあの迫力は凄かったよね」と当時を思い出しながらの語りです。ふれあいハイキングはひとは

がまだ無認可のころ、つながりの輪を広げる目的で当初20人くらいで始めました。ところが楽しかったこともあって、倍々ゲームで参加者が増えていき、実際に幼児期の子どもから80代の親御さんまで、安芸高田市内の小中学校を含めて実施していました。思い出は数知れませんが

隣町から参加した小学生がロープを持ってきており、彼にその理由を聞くと「去年車いすを押して上がったものすごくつらかったけん、今年は車いすにロープをつけてみんなまで上がろう思うんよ」との返事でした。今も、忘れられない思い出の一つです。

私たちの社会は、老若男女が相集って暮らしていくことを目指しています。その為にも「なあに、お互い様よ」「すまんがちょっと助けてくれえや」と言い合える関係を大切にしたいと思っています。

(理事長 寺尾文尚)

●●ひとは35周年によせて●● 自治会きらひとは19年目 坂井智子さん。

ホームに入ったのは20歳の時。堀田さんと二人部屋だった。堀田さんとは似島学園で一緒だった。

仕事はあついで食品製造をしていた。それから接客がしたいと希望し、ひとは館の仕事をした。

ホームではクリスマス会でプレゼントがもらえるのが嬉しい。

これからはグループホームに挑戦してみたい。

毎年、姪っ子にお年玉をあげている。



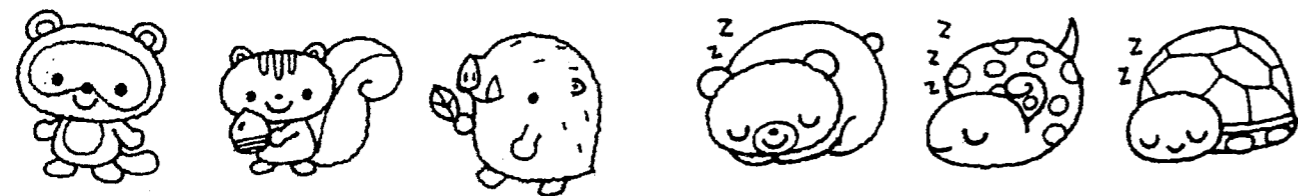
ひとはスタッフ 越智玄雄さん。

①私の中にあるひとはの記憶

ひとはで自分に何ができるのか？20代の無知な自分に勤務支援ができるのか？そんな心配は「なかま」とのふれあいですぐになくなった。自分がつらい表情をすると「なかま」も面白くない。自分が笑顔で楽しければ「なかま」も笑顔だと感じた。ひとはに来て最初に感じた事。「楽しければ「なかま」も楽しい」。今では「なかま」に毎日楽しませてもらっている自分がいる。

②明日のひとはへ

ひとはにご縁をいただいて16年が経つが、一日として全く同じことが起こる日は無い。喜ぶ事、怒る事、哀しい事、楽しい事、毎日が違う。「なかま」の個性を精一杯に輝かせようとスタッフは「なかま」の事を思い、「なかま」はスタッフの思いに応えようとする。皆にはそれぞれ思いやりがある。そんな温かい居場所をこれからも皆で一緒に作っていく。



ひ

「僕、かついた」

運動遊びでぶら下がりをしていた時の出来事です。しゅうすけくんはいつも3秒ぶら下がるのがやとでした。しかし、ある日突然20秒もぶら下がる事ができたのです！彼自身もそこにいたスタッフもびっくり！「僕、かついた」と、びっくりしながらも嬉しそうに自分の腕を見つめる顔が今でも忘れられません。

その日からしゅうすけくんは、スタッフが指定した回数や秒数より多くやりたいと意欲的に運動遊びに参加しています。自信は大きなカになるんだなと実感した出来事でした。
(ひあ・くらぶ 山崎 志歩)

と

「我が子の一言に」

ひとは作業所に入って4か月ほど経ちます。作業所はいつもゆったりした時間が流れる雰囲気がある、慌ただしいことが苦手な私にとって、穏やかで楽しいところだなと感じています。

ある日子どもの学校帰り、私が「最近あという間に一週間が終わるねー」と話したら、小学4年生の息子が「お母さん、楽しいことがあるんだねー！僕は知ってるよ、楽しい時間は、あという間に時間が過ぎるんよ。お母さん、良かったね！」と話してくれました。楽しく毎日を送れることに感謝。
(ひとは作業所 城崎 果那)

の

日

「まるはだかに戸惑う！」

先月号が発行されて数日後、重廣さんに呼ばれた。「あの『丸裸』ってどういう意味？」先月号の編集後記に、書き手を担ってきた記事を読み返した時に感じたことを「心を丸裸にされたよう」と書いていた。

とても神妙な顔つきだった。「ごまかされんという意味ですよ」と答えると、「難しい言葉を使わんとて」とお叱りを受けてしまった。確かに「丸裸」という言葉だけを読むとびっくりするかもしれない。「まったく…」と言いながら仕事に戻っていく重廣さんの表情は、どこか安心しているように感じた。
(くらむぼん 白井 くみこ)

マ

「あっぷの日々雑感」

日頃、尾道で小型船舶の免許教員をしていて、週に一度あっぷに来ているのですが、きららとの関わりの中で誰がどうしたということではなく、僕がいつも感じていることを書きます。障害者といわれる人は見るからに五体不満足であったり、見た目はわからないけど病院で診断されてそうだったりしています。

健常者といわれる人でも、私もそうですが眼鏡だったり、補聴器や入れ歯、肩が上がりらん、膝が曲がりらんという機能障害であるし、性格がひねくれていたり、さらには犯罪を犯す人も背景に生きづらさを抱えていると思うのです。

なのであっぷのきらら達と仕事をしていると、何が障害で何が健常なのか、わからんようになってきます。

母から聞かされていた幼い頃の僕の様子は、集団行動ができなかったり、授業中にもかかわらず一人で帰ったりというものでした。今の社会なら僕はなんらかの診断を受けていたかもしれません。障害と健常の境目は時代の流れによって変わっていくものなのかと感じています。
(就労センターあっぷ 中田善方)

自治会きらら会長より

きららをまりをかりさい
できてほんとうにありがとうご
ざいました。
ふしとごときを
みられてほんとうにすばらしい
なっておもいました。
しんしのすがたをみれて
ほんとうによかったです。
コナでふわんでしたけど
おわってよかったです。
ほんとうにありがとう
ございます。
さーこうです
谷川 恵美

- ～ 編集後記 ～ 青尾順子
- 私のクリスマス
- アメリカで生まれたいわゆる日教2世の父は
- この時期 クリスマスツリーを飾ってくれて
- 足の悪い私は毎年一本を飾っていた。
- 真宗者の文前さんにはクリスマスに縁がない。
- 今年60歳の母はクリスマスにマクドナルド
- ハイハイ。クリスマス玉をつめ、とりにフェルトを
- 置いてみた。
- 「おもしろい」と言った文前さんに、私は
- じいちゃんの中で ほかの

